

# 児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり

## －「授業づくりの視点」に基づく全校での実践をとおして－

田村典子・稗貫真理子・山口美栄子・

伊藤慎悟・伊藤嘉亮・杉本まゆき\*，名古屋恒彦\*\*

\*岩手大学教育学部附属特別支援学校，\*\*岩手大学教育学部

(平成28年3月2日受理)

### 1. はじめに

本校は、平成7年度より学校教育目標に「主体的」という文言を掲げ、その達成を目指し、授業づくりを行ってきた。また、平成22年度からは4年間にわたりキャリア教育を取り上げ、卒業後の生活で主体的に生活することを実現するために取り組んできた。その結果、小学部、中学部、高等部における主体的生活をつなげる必要性が明らかになった。

本研究においてもこれまでと同様に学校教育目標の達成を目指しているが、学校教育目標に「今」という視点が盛り込まれている点が以前と異なる。将来の主体的な生活を目指すためには、「今」の主体的な生活を積み重ねていく必要がある。つまり、「今」と将来は連続しており、日々の授業で主体的に活動することが大切であると考えた。

そこで、本研究では「今」に焦点を当てながら全校での授業づくりに取り組むことにした。

研究1年目の平成26年度には、「今、主体的に活動できる授業づくり」のために、「授業づくりの視点」の提示と教育課程の見直しをした。そして、授業づくりで学校教育目標の達成を目指すこと（一貫性）や児童生徒が生活年齢相応の活動に主体的に取り組むためには各学部のつながりが必要であること（連続性）を確認した。

研究2年目である平成27年度は、1年目で確認したことを基に全校で授業実践し、「今、主体的に活動できる授業づくり」の実現を目指した。

### 2. 方法

#### (1) 授業づくりの構想

構想を立てるにあたっては、日々の授業で主体

的に活動できるように「授業づくりの視点」を中心にすえ、PDCAサイクルによる授業改善の流れを重視した。

#### (2) 「授業づくりの視点」を基にした授業づくり

「授業づくりの視点」が「今、主体的に活動できる授業づくり」になるように平成27年6月の研究参観週間での授業実践をとおして検討した。そして、この実践により明らかになった課題を11月の学校公開研究会で改善して授業づくりをすることを目指し、「授業づくりの視点」の整理、指導案の様式の見直しを行った。

### 3. 結果

#### (1) 授業づくりの構想

本研究では、「主体的に活動する姿」を学校教育目標（表1）に示されている6項目とし、これを授業の目標とした。

表1 本校の学校教育目標(H27年度)

現在及び将来の社会生活において、主体的に、そして豊かに生きる人を育成する。 ・ やりがいをもって意欲的に活動する ・ 自分の力で取り組む ・ 自分の役割に進んで取り組む ・ 精いっぱい活動し満足感・成就感をもつ ・ 仲間と共に協力する ・ 心身共に豊かに生きる
--

そして、「授業づくりの視点」を中心にしたPDCAサイクルを授業づくりと捉え、日々の授業を改善できる構想にした。計画(P)は「授業づくりの視点」を基にした単元づくり、実践は授業(D)、この授業を「主体的に活動する姿」で評価(C)し、この評価を基に日々の授業や単元の改善(A)を重ねるという流れにした。

この授業づくりには、一年目の研究で確認した

# 授業づくりの構想

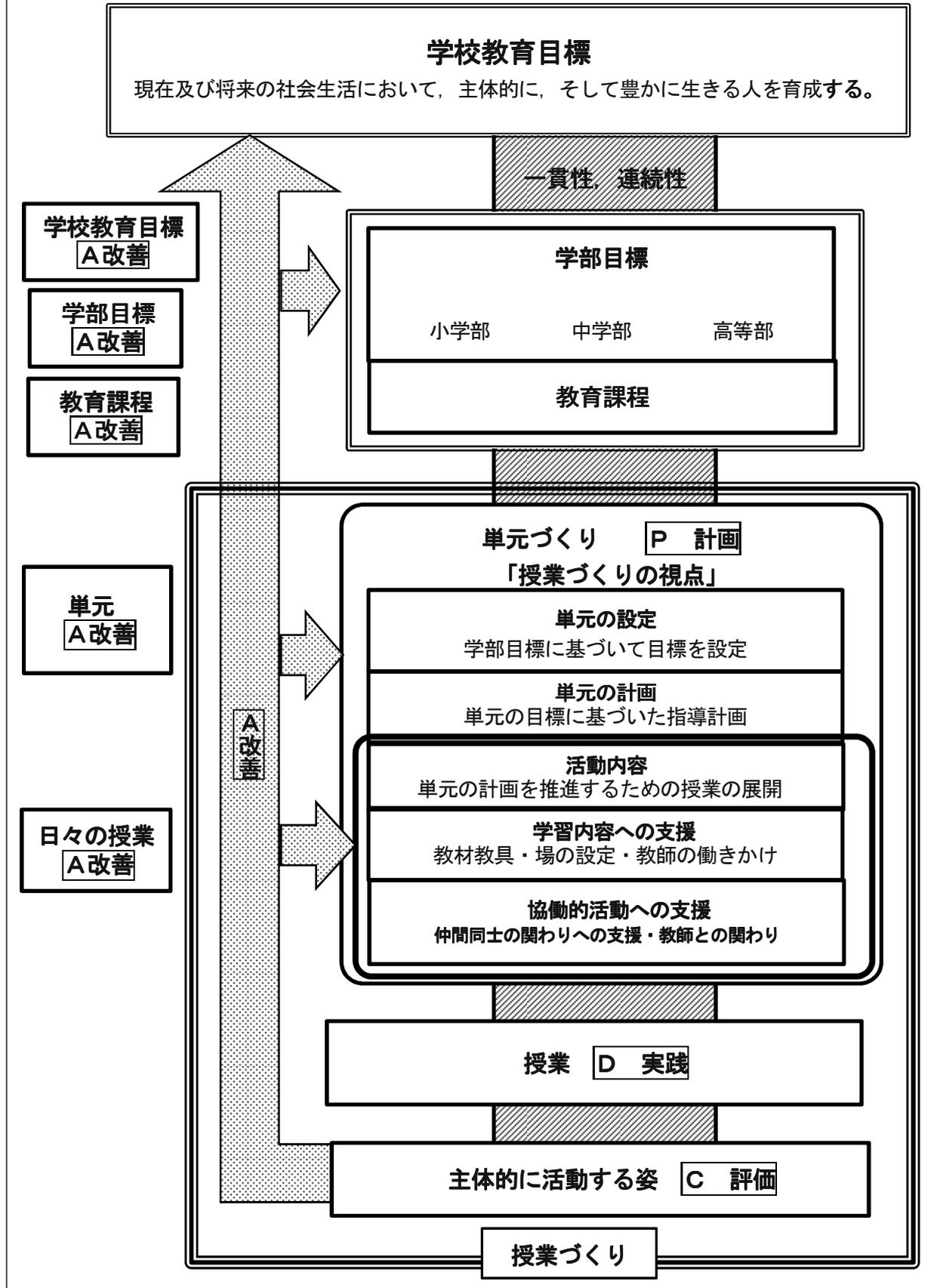


図1 授業づくりの構想

一貫性と連続性が必要であると考え、図1のような授業づくりの構想が完成した。

(2)「授業づくりの視点」を基にした実践

①「授業づくりの視点」の整理

「授業づくりの視点」は、平成26年度に「授業づくりの方法」として提示したが、平成26年度11月の研究参観週間の授業実践と授業研究会での検討を行い、計画(P)、実践(D)、評価(C)、改善(A)というPDCAサイクルの基盤となる視点であることが確認できたため、その名称を「授業づくりの視点」と改めた。

この「授業づくりの視点」には、授業づくりの視点と各視点の具体的内容が示してある。

さらに、平成27年度6月の研究参観週間における実践と検討をとおして見直しを図り、より「主体的に活動する姿」へと迫るためには、中心的な活動を繰り返す計画が効果的であるという方向性を示した。これを平成27年度版とし、「授業づくりの視点(H27)」を示した(表2)。

表2 「授業づくりの視点(H27)」

授業づくりの視点	授業づくりの視点の具体的内容
①単元の設定 学部目標に基づいて目標を設定 どの児童生徒も目的をもち取り組める単元に	○児童生徒の実生活に結びついた単元 ○興味関心や願いを取り入れた単元 ○活動の流れやつながりが明確な単元
②単元の計画 単元の目標に基づいた指導計画 中心になる活動を繰り返す計画に	○まとまりのある計画 ○繰り返すことで活動を積み重ねることができる計画 ○発展性のある計画
③活動内容 単元の計画を推進するための授業の展開 どの児童生徒も存分に活動できるように	○集団の中で、人と関わり、自分の役割を遂行できる活動内容 ○自分のもっている力を生かし、やりがいを感じられる活動内容 ○自分で考え、行動できる活動内容 ○達成感、充実感を得られる活動内容 ○自己選択・自己決定できる活動内容
④学習内容への支援 教材教具・場の設定・教師の働きかけ 分かって動き、十分に活動できるように	○児童生徒が自分でできる教材・教具 ○自分から活動できる教材・教具 ○十分に組み組める活動量と時間 ○活動しやすい道具の配置、動線 ○児童生徒が自分でできるような教師間の連携(T-T)
⑤協働的活動への支援 児童生徒同士の関わりへの支援・教師との関わり 教師も共に活動しながら、共感的に支援できるように	○共に活動する友達に関心を向け、友達や教師と共に活動できるようにする。 ○教師は児童生徒と共に活動し、自分でできる状況をつくるような適切な関わりをする。

②「平成27年度版指導案」の活用

「授業づくりの視点(H27)」を基にして授業づくりを行うために、指導案の様式の見直しについて以下のとおり見直しを図り、平成27年度版指導案(図2)とした。

様式で見直した点は以下の2つである。

ア、単元の構想が一目で分かるように「授業づくりの視点(H27)」を指導案に盛り込み、小見出しを付けた(図2※1, 2)

イ、「主体的に活動する姿」を明確に意識できるように、単元の目標、本時の目標を【単元で目指す主体的な姿】、【本時で目指す主体的な姿】と示し(図2※3, 4)、目標の語尾を「～に取り組む」、「～する」という表記した。

○学部「○○学習（○学年）」学習指導案

日 時 平成 年 月 日 ( )  
校時 ( : ~ : )

場 所  
対 象 学部 年 ( 名 )  
指 導 者 名 前 (T1) 名 前 (T2)

※1  
単元づくりにおいて「授業づくりの視点」について具体的に説明する。

I 単元名 「 」

II 授業づくりの視点

- 1 単元の設定【 小見出し 】
- 2 単元の計画【 小見出し 】
- 3 活動内容【 小見出し 】
- 4 学習内容への支援【 小見出し 】
- 5 協働的活動への支援【 小見出し 】

※2  
視点ごとに小見出しを付けることで、視点の内容が、一目で分かるようにする。

III 単元の目標【単元で目指す主体的な姿】

- 1  
2

※3  
単元の目標は主体的に活動する姿とする。  
文末は「～に取り組む」または、「～する」

IV 単元計画（総時数 時間、 日間）

主に○校時に以下の活動内容について実施する。 ※活動時間帯が分かるように説明する。

	主な活動内容	月 日	時 数
第1次			
第 次			

V 本時の授業

- 1 本時の授業について  
本時は～
- 2 本時の目標【本時で目指す主体的な姿】  
(1)  
(2)

※4  
単元の目標を受けて、その日の活動内容に沿った目標を具体的に示す。本時の目標は※4と同様に主体的に活動する姿とする。  
文末は「～に取り組む」または、「～する」

3 本時の展開

学習内容 (時間)	学習活動	支援上の留意点
1 ( )		
2 ( )		

4 配置図

VI 個人の目標及び支援

氏名等	単元にかかわる活動の様子	本時の目標	本時の支援（教材教具、場の設定、教師の働きかけ他）
A (年・男○r女) ・活動内容			
B			

図2 平成27年度版指導案

### ③学校公開研究会に向けての授業づくり

11月28日(土)の学校公開研究会では、6月の研究参観週間で明らかになった課題を改善するために「授業づくりの視点(H27)」に基づいた「今、主体的に」活動できる授業づくりを目指した。また、「平成27年度版指導案」の活用により、「主体的に活動する姿」と「授業づくりの視点」が参観者に伝わるように示した。各学部で重点的に取り組んだ課題と学校公開研究会の公開授業に関する反省・まとめについては表3～5のとおりである。

表3 小学部の課題と公開授業の反省・まとめ

- 重点的に取り組んだ課題
  - ・児童に分かりやすい単元の設定
  - ・児童に分りやすい活動計画と存分に活動できる活動内容
  - ・児童一人一人にあった具体的な目標設定
- 公開授業の反省・まとめ
  - ◎「子ども発信」を大切にして単元設定をし、活動内容を考えられた。
  - ◎3学級とも児童に合った役割や活動量を準備できた。
  - ◎単元の目標、個人の目標について授業者で話し合い「主体的」になるように検討した。
  - ▲目標をより具体的にするために、そして「生活単元学習」や「遊びの指導」の学部のねらいを再度検討する必要がある。「一緒に」の捉えを共通理解する必要あり。
  - ◎「事例記録表」に児童の活動の様子を記録し授業改善につなげられた。
  - ▲記録表を毎日書くことは難しい。記入期間や内容を整理し、使いやすいものになるとよい。
  - ◎「単元のまとめ表」に単元の完成を記入した。
  - ▲次の単元、次年度に向けてなど、まとめ表の活用が機能していない。活用の見直しが必要である。
  - ◎「生活ノート」に単元の評価を記入した。
  - ◎「遊びの指導」では様式はないが、生活ノートで活動の様子と評価をまとめた。
  - ▲「生活ノート」作成の意図を年度初めに学部で確認する機会が必要である。
  - ▲「遊びの指導」でも活動の様子や評価をまとめるための様式を検討する。
  - ◎今回の学部での授業づくりの成果を生かして、授業づくりを行っていききたい。
  - ▲「単元のまとめ表」を活用しながら取り組みたい。

表4 中学部の課題と公開授業の反省・まとめ

- 重点的に取り組んだ課題
  - ・生徒にとって分かりやすい単元の設定になるようにした。
  - ・生徒にとって達成感を感じられる単元の計画、活動内容となるようにした。
  - ・生徒の主体的な姿を具体的に表現した。

#### ○ 公開授業の反省・まとめ

- ◎年2回学級での生活単元学習を組み、前単元を改善した単元づくりができた。生徒にとっても単元が結びつき分かりやすい単元の設定になった。
- ◎学部で検討することで他学級の授業を理解し合えた。
- ▲単元の目標から個人の目標への落とし方が難しかった。
- ▲「事例記録表」では目標の異なる2名の生徒を対象にしたが、全員分記入するとなると難しい。
- ◎生活単元学習ノートに生徒一人一人の評価を記入したが、書き方を統一したことで、端的に記入できた。
- ◎「単元の反省用紙」を回覧し、単元が終わってすぐに振り返ることで、次単元、次年度に向けての改善点を具体的に残すことができた。
- ◎学部研究会等で学級の振り返りを共有することで共通の課題について意見交換することができた。

表5 高等部の課題と公開授業の反省・まとめ

- 重点的に取り組んだ課題
  - ・生徒の意欲や自信につなげるため、全員で作業に臨むガンフ集会の発表の仕方を工夫した。
  - ・生徒たちが在庫管理ができるようにすることで販売会や作業に対して見通しをもてるようにした。
  - ・生徒が活動しやすいように、販売会の場所や計画の改善をした。
- 公開授業の反省・まとめ
  - ◎日々、試行錯誤して授業をつくった。
  - ◎日々の授業づくりの計画があり、改善がスムーズにできた。
  - ◎実習や行事が入ったが、目標達成に向けてぶれずに活動できた。
  - ◎1回目の販売会を終えると生徒たちの意識が高まった。
  - ◎繰り返すことで製品の質の向上が見られた。
  - ◎「生徒の記録」、「授業の記録」は授業を振り返り、授業改善に役立った。様式を整理し、活用していきたい。
  - ◎毎週木曜日を「作業T会議」として設定する。
  - ◎生徒の「主体的に」を考え、一体感をもち授業づくりに向かうことができた。
  - ◎販売会に向けた設定は試行錯誤を繰り返したが、半年経ち、生徒たちが主体的に活動できるようになり良かった。
  - ◎あにわ祭での販売を意識し、全員が「売る」をキーワードに取り組めた。
  - ◎2回目の販売会は1回目より見通しをもち取り組めた。
  - ◎ガンフ集会での作業紹介や在庫の確認、販売会の連絡があり、見通しや目的をもちやすかった。
  - ◎繰り返し活動ができる計画にしたので見通しがもちやすかった。
  - ◎単元の反省を「成果」「課題」「改善案」にまとめたので次単元での改善につなげやすかった。
  - ▲主体的な姿の捉え方、どう見取り、計画するかが難しかった。
  - ◎T1会議で話し合ったことを改善に結び付けることができた。

#### 4. 考察

##### (1) 成果

本研究の成果は、「今、主体的に活動できる授業づくり」を実現するために全校で授業実践に取り組んだことである。具体的には、以下の3点が挙げられる。

- ①「今、主体的に活動できる授業づくり」の構想を具体化した。
- ②「今、主体的に活動できる授業づくり」のために「授業づくりの視点(H27)」を設定した。
- ③「授業づくりの視点(H27)」を基に授業実践できるように指導案の様式を見直し「平成27年度版指導案」を提示した。

##### (2) 課題

「今、主体的に活動できる授業づくり」をより深化するために、以下に挙げた課題に取り組む必要がある。

- ①「平成27年度版指導案」での授業実践を積み重ね、授業づくりについてさらに全校で共通理解を進める。
- ②個別の指導計画、個別の教育支援計画を授業と関連付けることで、授業の目標である「児童生徒が主体的に活動する姿」を具体的にしていける。

#### 5. まとめ

本研究では「今、主体的に」を全校の合言葉に、授業づくりに取り組んできた。特にも「今」に焦点をあてたことは、本校の授業づくりの方向性を決定付けるものだった。「今」とは日々の授業であり、「今、主体的に」を実現するためには日々の授業の改善が欠かせない。そこで、「授業づくりの構想」にPDCAサイクルを取り入れることにしたが、日々の授業をとおしてその有効性を実感している。

この「授業づくりの構想」は全校で取り組むことへの意識付けにもなったが、全校で実践に取り組むことは容易ではなく、一つ一つの課題を解決しながら、研究を進めてきた。結果的には「授業づくりの視点」の整理、「平成27年度版指導案」

の活用など、「今、主体的に活動できる授業づくり」の実現に向けた結果、大きな一歩につながったと考える。今後は、この成果を大切に、授業実践を積み重ねるとともに、次の課題に向けて取り組んでいきたい。

#### 謝辞

川村 憲弘様（岩手県教育委員会事務局学校教育室主任指導主事）、佐藤 淳様（岩手県立総合教育センター主任研修指導主事）、最上 一郎様（岩手県教育委員会事務局学校教育室指導主事）におかれましては、本研究の助言者として第20回学校公開研究会をはじめ、授業参観週間・学部の授業研究会、学校公開事前研究会に来校していただき、的確な助言を頂きました。深く感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2007) : 「研究紀要第19集」
- 2) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2009) : 「研究紀要第20集」
- 3) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2011) : 「研究紀要第21集」
- 4) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2013) : 「研究紀要第22集」
- 5) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2014) : 「研究紀要第23集」
- 6) 名古屋恒彦著 (2010) : 「特別支援教育 領域・教科を合わせた指導」のABC～どの子にもやりがいと手ごたえのある本物の生活を～」
- 7) 太田俊己監修・千葉大学教育学部附属養護学校著 (2004) : 「子ども主体・生活中心の教育シリーズ 支援案の書き方・個別の支援計画 ニーズに応える特別支援教育」
- 8) 渡辺三枝子 (2013) : 『『今』と『つなぐ』はキャリア教育のキーワード 特別支援教育研究 No. 673』東洋館出版